

霧島酒造

バックアップサーバに Synology RackStation RS814+ を採用

「品質をとぎめきに」を企業スローガンに掲げ、日本を代表する焼酎「霧島」をはじめ各種本格焼酎の製造・販売を行なっているのが霧島酒造(本社:宮崎県都城市、<http://www.kirishima.co.jp>)だ。いも焼酎「霧島」「黒霧島」「赤霧島」で知られる酒造メーカーだが、製造ラインアップは幅広い。都城市にある 2 工場 1 プルワリーでは、都城盆地の地下岩盤の割れ目から噴き出す「霧島裂罅水(きりしまれつがすい)」を使用し、いも焼酎、芋麹焼酎、麦焼酎、そば焼酎、穀類焼酎のほか、健康を意識しながらお酒を楽しんでもらうための「健麗酒」と呼ぶスピリッツ、英 Bass 社で醸造技術を学んだ地ビール・発泡酒などを生産している。



霧島酒造株式会社
管理本部システム管理課
堀之内茂幸氏

情報系・製造系の ディザスタリカバリーシステムを構築

この霧島酒造のデータバックアップ用の共有ディスクとして Synology RackStation RS814+ が導入され、2014 年度から本格運用され始めた。

「プライベートクラウド環境を活用し始めたのは 2010 年くらいからです。クラウドとサーバを併用した形で社内システムを構築して来ました」と話すのは、管理本部システム管理課の堀之内茂幸氏だ。「社内システムのバックアップは、社内サーバを使用して行なっていたのですが、遠隔地におけるデータ共有/保管やディザスタリカバリー(災害被害や障害からのデータ復旧)を行なえる環境の構築が必要になって来ました。今回、ディザスタリカバリーのサイトに活用する iSCSI 共有ストレージとして、Synology RackStation RS814+ を導入しました。ストレージ環境は、コストをかけるほど使い勝手が良く性能も良いものを構築することができますが、今回はディザスタリカバリー用の導入であり、本サイトと同じコストはかけられません。しかし、安価な製品を導入するには不安もあります。データセンターの方から紹介いただいた RS814+ をテストしてみたところ、コストパフォーマンスに優れ、もっとも重要視していた保守・メンテナンスの態勢も良かったことから導入に至りました。」

霧島酒造では、2013 年にディザスタリカバリーのサイト構築の設計を行ない、バックアップシステムの検討も行って来た。2014 年 1 月に RS814+ の導入を決定し、データセンター内にディザスタリカバリーシステムをバックアップシステムも含めて構築した。今回構築したディザスタリカバリーシステム

では、社内情報系システムと製造系システムのバックアップがなされている。RS814+ は 2TB ディスク × 4 台で構成し、RAID 5 で 6TB として利用している。

マニュアルを読まずに簡単設定

霧島酒造の拠点は、東京・大阪・福岡・宮崎の 4 支店に加え、仙台・名古屋・広島・北九州・熊本・大分・延岡・沖縄の 8 カ所に所在所がある。これらすべての拠点の社内システムの運用/管理を、システム管理課で行なっているのだという。そのため、設定に時間がかからないことは大きなメリットだと、堀之内氏は言う。

「製品を比較検討する上で重要な要素には、感覚的に設定を進められ、簡単に設定を終えることができるかどうかという点があります。実際にログインして使い始めてみると、管理画面などのインターフェースが分かりやすく、マニュアルを読み込まなくても簡単に設定ができたことには驚きました。分厚いマニュアルを調べながらでない設定できない SE 泣かせの製品も多いなか、RS814+ は、ファーストステップの 1 枚の手順書でディスク搭載方法や接続方法が分かり、あとはログインさ



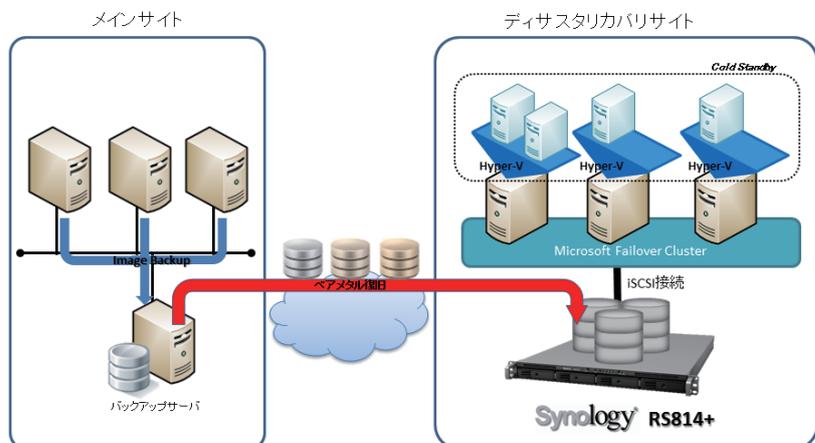
RS814+

えすれば見やすい日本語のユーザーインターフェースが表示されます。製品が到着したその日に最小構成のシステムを構築できたほどで、とても扱いやすい製品でしたね」

これまででは地方拠点からも本社サーバにアクセスしてデータを参照する集中型のネットワーク運用だったが、今回のシステム構築では、本社も拠点の 1 つと考え、データセンターを中心としたネットワーク運用へと移行した。

「ディザスタリカバリーシステムを構築し、RS814+ にバックアップがとられるようにしたことで、どの拠点からも本サーバを経由せずにデータ参照をすることが可能になりました。実は、ネットワークに障害が発生してデータ参照できなかったため、商品の出荷が止まってしまったという経験があるんです。今回の導入で、障害時にも安心して営業を継続できるようになりました」

ディザスタリカバリー環境構成図



拡張性に優れた Synology RackStation

堀之内氏は、Synology 製品は、設定のしやすさだけでなく、パフォーマンスや拡張性に優れた製品であることも魅力だと話した。「今回のシステム構築では、iSCSI 接続で、複数のクラスタから同時にアクセスしてディスクを共有するパフォーマンスに絞って検討しました。最近の NAS 製品は高機能ではあるのですが、OS 部分にパフォーマンスが割かれてしまって、活用したい機能部分で十分に性能が得られないことがあります。

RS814+ は、不要な機能を省いておき、機能が必要になってから追加することができるので、パフォーマンスを最大限に生かすことができました」

サーバアクセスする端末は 400 台ほど。そのうち普段同時に利用するのは 20 ユーザーほどだという。

「もっともアクセスが多いのはグループウェアだと思いますが、本サイトに障害が発生してディザスタリカバリーサイトで運用する場合においても、同時に 200 ユーザーくらいだと考えています。本サイトの復旧に 1 日かかったとしても、Web ベースのアクセスなので、十分なパフォーマンスであると考えました。」

Synology RackStation は、ストレージを拡張したり、ディスク容量を増やすための RAID 自動管理システム Synology Hybrid RAID を搭載している。

ディスク容量が不足して追加したいという場合に、データ移行することなく容量が拡張できる。

デスクトップモデル DS214+ で モバイル運用をテスト中

霧島酒造では現在、全国の営業拠点でのデータ活用や、社内の部署ごとのデータ共有用に、デスクトップモデルの Data Station DS214+ を検討している。

「社内では、ローカルディスクにはデータを置かず、クラウドに保存することになっています。しかし、大容量ファイルや頻繁に必要なファイルについては、部署ごとに NAS を設置してデータを共有化しています。」

霧島酒造では、営業ツールとして iPhone / iPad などの端末も 150 台導入している。得意先からグループウェアにアクセスしたり

データを参照したいという要望も出て来ているようだ。

「広報や営業支援の活動をする企画室では、広告に使用する Photoshop や Illustrator のファイルをはじめ、CM の動画ファイルなどを扱っています。大容量であるために部署の NAS に保存しているのですが、内容の確認のためには、本社に戻る必要がありました。動画ファイルをクラウドに置けば、出張中であっても開くことはできるのですが、コマ落ちなどもあり確認しづらかったんです。DS214+ にはストリーミング機能も設定できますので、ツールとして活用できないか検討していきます」



DS214+

中央管理システム

増加するデータの管理についても、RS814+ に搭載されている中央管理システム機能 (CMS) を活用することで解決することができそうだ。中央管理システム機能は複数台の Synology 製 NAS を RS814+ から一元管理するもので、LAN / WAN に接続された NAS のファームウェア更新や HDD の健康状態チェックを RS814+ 経由で行う事が可能だ。

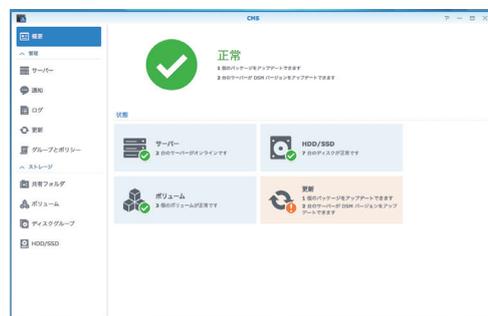
また、Synology の NAS に既存のファイルサーバーをマッピングする事も可能だ。

「RS814+ に目的のファイルが保存されていなくても、部署内に置かれた DS214+ にある共有フォルダをマッピングできます。これまではクラウド上にファイルを利用するためにはコピーする必要がありましたが、この機能を使えば、事前にコピーする作業無く、外出先や各拠点から部署内のファイルにアクセスすることが可能になりますね」

堀之内氏は、「Synology のソリューションは NAS だけに利用するのはもったいない」とも話す。今後は、機能を追加することで Web サーバ、DB サーバ、ストリーミングサーバなどに活用できることから、必要に応じて機能を追加 / 削除して専用ハードウェアとしても活用していく。



スマートフォン用管理画面



中央管理システム機能 (CMS)



DiskStation Manager (DSM)

本製品のお問い合わせ先



株式会社アスク

〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-8-21 山脇ビル 11 階

TEL : 03-5215-5650、FAX : 03-5215-5651

■URL / <http://www.ask-corp.jp/>